

## ▼ 認知症高齢者が安心して暮らし続けられる地域に

～「友愛訪問活動推進研修会」を開催しました～

(2020.10)

去る10月9日より県内3ヶ所において、「友愛訪問活動推進研修会」を開催しました(計69名が参加)。この研修は、ひとり暮らし高齢者と接する機会の多い、友愛訪問員や老人クラブリーダーに対し、高齢者に関わる様々な課題について学んでいただき、日頃の活動にいかしてもらおうと毎年開催しています。



本年は「新型コロナウイルス感染症」の感染拡大防止のため、時間を短縮し、また人数を制限して実施することとしました。

今回のテーマは「高齢消費者の被害防止」と「認知症の方への接し方」。

「高齢消費者の被害防止」では、講師である消費生活専門相談員の 元木 禎子 先生から、まず、本年9月に県内で発生した名義貸しを持ちかけられたこと



を発端とし、数回にわたって計3200万円をだまし取られた詐欺事件が紹介され、その他、キャッシュカードを巧妙にだまし取る、訴訟の最終通達を装ったハガキによる架空請求など、具体的な詐欺の手口が紹介され、参加者に注意を呼びかけるとともに、周りの人も被害に遭わないようにしてほしいとされました。

「認知症の方への接し方」では、講師である認知症介護指導者でキャラバンメイトの 西山 恵子 先生から、はじめに認知症について、代表的な症状や主な原因はアルツハイマー型など4つに分類されること、もの忘れなど認知機能の低下による中核症状から、不安や戸惑いが起こり、徘徊や問題行動などの行動・心理症状(BPSD)を引き起こすことが説明されました。しかし、地域の理解や支援、つながりが維持されると、認知症の発症や状態の悪化を遅らせるこ

とができるとして、友愛訪問員の皆さんによる見守りや声かけの取組は非常に有効であるとされました。

後半では認知症の人との接し方について説明があり、まずはその方の味方になること、接する際はフランスで生まれた介護の手法である「ユマニチュード」(「見る」「話す」「触れる」「立つ」に重点をおいた介護<※>)を心がけることが大切であるとされました。また、再会の約束をメモなどに残すことで「また会いに来てくれる」という喜びや期待につながるとされました。

<※>

「見る」…視野に入るよう正面に笑顔で

「話す」…いつもの3倍話しかけて

「触れる」…触れることで大切にしていることを表現

「立つ」…1日に計20分立つことができれば寝たきを予防

(講演中に紹介された認知症の方の声) 発症後11年目

だめな人間と決めつけられ、いやでいやでたまりませんでした。

できたことがどんどんできなくなっていました。車の運転は怖くてもうできません。買い物もできなくなりました。数字の区別ができないので電話もかけません。自分がどんどんだめになっていくのが不安です。

<中略>

私は、頭は病気でもからだはとても元気です。体力もあります。心はやる気でいっぱいです。重い荷物も運べます。頼まれたら動きます。だから、することを言ってもらえれば、ゆっくりですがたいていのことはできます。人の役にたつて喜ばれたいし、感謝されたいです。なんでこんなになったのかくやしいです。